



# チャレンジデー2022 結果報告

# チャレンジデー担当よりお礼



参加自治体の皆さま、  
ありがとうございました！！



- おうちチャレンジデー2022の実施  
Youtube配信ならびにライブ配信
- 全国共通イベントの全面リニューアル  
参加自治体の投票により、実施種目を決定
  - ✓ バスケットボール入れ
  - ✓ チームふらば～るボール
  - ✓ ビニール傘玉入れ



# チャレンジデー2022実施結果



実施日

2022年5月25日(水)

参加自治体

68自治体

総人口

2,175,832人

参加者数

995,724人

参加率

45.8%(2021年:26.6%)

全体の参加率は、昨年より増加。  
コロナ前(2019年)の水準には届かず。

※2019年:58.9%→ 2021年:26.6%→2022年:45.8%

	2019年→2022年	2021年→2022年	
増加	11/63自治体 (17.5%)	<b>48/56自治体 (85.7%)</b>	→6自治体
減少	<b>52/63自治体 (82.5%)</b>	8/56自治体 (14.3%)	→5自治体

## コロナ前からのプログラムを実施できた否かが 参加率に影響

	参加率が2019や2021と 比べて <b>増加</b>	参加率が2019や2021と 比べて <b>減少</b>
予定していた プログラム実施	<b>実施できた</b>	一部 実施できなかった
コロナ前からの 継続プログラム実施	<b>実施できた</b>	一部 実施できなかった
新たな取り組み (コロナ禍に関わらず)	多くの自治体で実施	

**2023年5月31日(水)開催予定!**

■チャレンジデーグッズの商品  
入れ替え検討中

■今年リニューアルした  
全国共通イベントを引き続き実施予定!

ご清聴ありがとうございました！



チャレンジデーへのご意見は  
担当までご連絡ください！

<今後の予定>

■チャレンジデーレポート完成(9月末頃)

■助成金完了報告書の提出締め切り(10/14)

■チャレンジデー2023申込開始(12月頃)

「現地参加」と「オンライン参加」を同時に実現！

## ハイブリッド型で集いの継続を支えるアプリ



# つとエール



公益財団法人  
身体教育医学研究所  
Physical Education and Medicine Research Foundation

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION



# つどエール



「人と人が集う交流の機会（集い）」が  
コロナ禍の影響で実施できなくなった問題を解消するために開発！  
スマートフォンやタブレットから、オンラインで簡単に集いを開催できる  
コミュニケーション・アプリです。



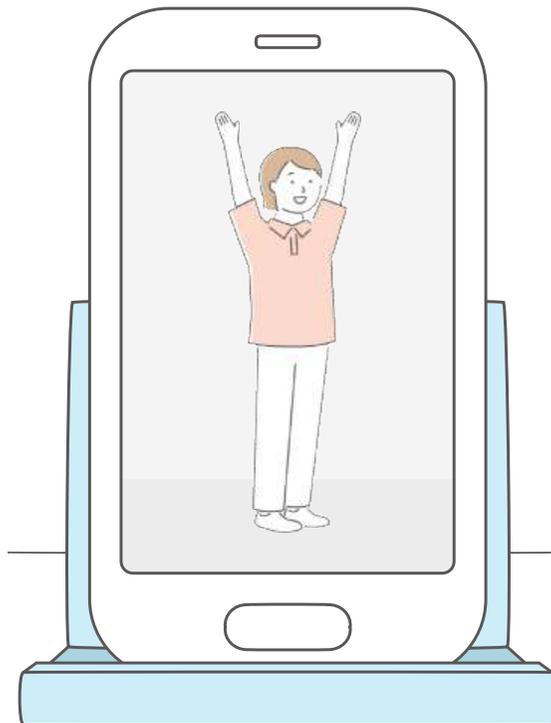
## 「つどエール」の由来

集いを支援する「集う+エール」という意味合いからの造語で、「集うことができる=集える」や、「都度+（会）える or（元気を）得る」などの意味も込めています。商標登録第6434976号（登録日：2021/8/25）

# 「つどエール」のある暮らし

コロナ禍でも人と人との  
つながりを絶やさない！  
新たな集い方をご提案します。

感染予防対策をとりながら定期的に  
集う活動を続けるには、とても手間  
がかかりました。「つどエール」を  
使って気軽にオンラインで繋ぐこと  
ができれば、集いに参加できなく  
なった・しづらくなった高齢者の  
方々にも、集い参加への新たな門戸  
が開かれます。



# 高齢者の健康・生きがいづくりにつながる オンラインの活用

そこで、高齢者の方々にとって、参加することが健康・生きがいづくりの場となっていた平常時の集い（健康教室やサロン活動等）を、スマートフォンやタブレット端末のアプリを使って、オンラインでどこからでも気軽に参加できる環境を整えることで、たとえその場に行けなくても、現地参加に近い満足や効果を提供できる仕組みになると考え、「つどエール」を開発しました。

3密回避で人数制限が必要な場合でも、現地参加とオンライン参加を併用すれば、多人数で開催できます。



集いの場



つどエール



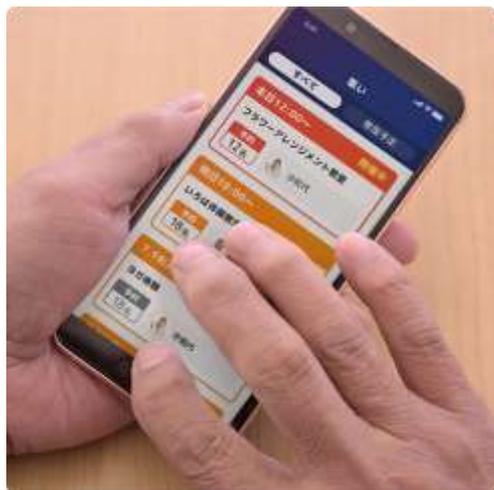
どこからでも  
オンラインで参加！

アプリ利用：無料



「つどエール」を利用したい団体（自治体等）には一定の利用料（利用負担金）が必要ですが、対象となる**参加者（住民等）**の方々の**アプリ利用は無料**です。  
（ただし、通信環境によって利用者に通信料がかかる可能性があります。各会場や個人のインターネット環境をご確認ください。）

# 機能面の3つのポイント

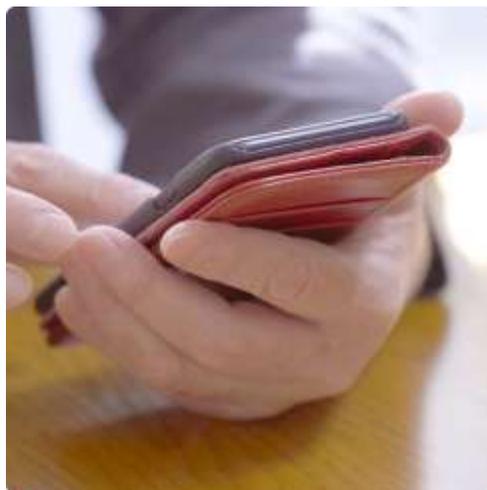


## 簡単操作

複雑な機能を減らすことで、少ないステップで操作可能。操作マニュアルを用意し、サポートします。

世話役

参加者



## シニア向け スマートフォンにも対応

高齢者の利用率が伸びているシニア向けスマートフォンにも対応しており、幅広いご利用が望めます。

世話役

参加者



## 活動データの収集

パソコンの管理画面から、登録や参加状況などを把握。集いの開催を促進・支援することができます。

管理者

# 導入によって期待できる効果



## 集い参加者の拡大

集いの現地に足を運ばなくても集いに参加できるので、参加者の拡大や満足度の向上が見込めます。



## リテラシー教育

高齢者のICTリテラシー教育（スマートフォンの基本操作を学ぶ機会を設ける等）と結びつけることで、相乗効果が期待できます。



## 現地の集いの継続

つどエールを利用することで、現地で行われている既存の集いを休止することなく継続できます。

# 運営について

アプリ「つどエール」は、2020年度日本財団助成事業 新型コロナウイルス感染症に伴う社会活動支援  
「社会を変える活動支援」を受けて公益財団法人身体教育医学研究所が実施した  
「withコロナ時代に高齢者が繋がり続ける活動を発展させるハイブリッド型支援法の確立」  
(事業ID：2020532035、事業期間：2020年10月20日～2022年3月31日)の  
成果物として開発されたものです。



公益財団法人  
身体教育医学研究所  
Physical Education and Medicine Research Foundation

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

事業主体	公益財団法人身体教育医学研究所 (長野県東御市)	開発運営	株式会社スノウロビン (兵庫県神戸市)
事業協力	身体教育医学研究所うなん (島根県雲南市)	事業助成	公益財団法人日本財団 (東京都港区)

## ジョイントミーティング 趣旨説明

- 趣旨説明 & モデレーターのご紹介
- ジョイントミーティング開始【40分】  
→ブレイクアウトルームに移動
- 休憩
- クロストーク【10～15分】

①チャレンジデーの成果と課題、スポーツ振興についての取り組みや工夫などを共有

→今後の地域におけるスポーツ振興について考える

②チャレンジデーが30周年を迎えた

→成果と課題を整理して、次のステージを考える

何かを決定する場ではありません。

皆様からの率直なご意見・ご感想、多岐に渡る視点での、次のステージに繋がるアイデアをいただきたい

特定非営利活動法人市民プロデュース  
理事長

## 平田 隆之 氏



### 【経歴】

山口市生まれ、山口市在住。

住民自治組織の地域づくり計画策定において、住民の対話から具体的アクションへと導くプロセス設計および運営等を行う。その他、博覧会や国体などの大型イベントを契機として多様なセクターをつなぎ、それによって生まれた市民の自発的活動を定着に導く役割を担う。

きらら博県民組織事務局長、国民文化祭街中デニムや山口ゆめ花博県民参加支援ディレクター、山口国体県民参加センター長、町田市まちサポ支援、山口県中山間地域支援、Tokyo2020都市ボラ大学アドバイザーなど。

**SDGusサポーターズ(株)代表取締役**  
**日本JC公認SDGsアンバサダー**  
**(一社)わたしのSDGs 顧問**  
**FC NossA八王子 アドバイザリーボード**

## 梅澤 朗広 氏

### ■ 経歴

野村證券八王子支店で5年間勤務後、Jリーグ東京ヴェルディへ。営業とホームタウン、ボランティア事務局の業務を担当し、Jクラブとパートナー企業、行政による価値共創に取り組む。環境啓発活動として「ごみゼロマンヴェルディ(日野市)」や車いす席で観戦する方をアテンドする「車いす席ボランティア(多摩市社会福祉協議会)」など、各団体との連携による課題解決に注力した。SDGsの「パートナーシップ」の理念に共感し、SDGusサポーターズ株式会社を創業。SDGsを共通理解のツールとして企業向けコンサルや教育機関での講演、伝統工芸の継承を目的としたクラウドファンディングの実施など、企業や地域の課題解決に取り組む。





## ●参加自治体には事前に伝えておきます

①自己紹介(1人1分程度:8分程度)

②課題や相談事項の共有(12分程度)

CDに参加、企画・運営する上での課題・お悩み、またはうまくいったこと・良かったこと

③次に繋がる対応策のアイデア出し(20分程度)

新しい取り組み、アイデア、または運営上の改善点などを共有し、グループメンバーから意見をもらう。

## ●各グループでの議論内容のシェア（4分）各1分程度

→平田さん、梅澤さん、SSF澁谷、SSF小淵

## ●今後の展開について（8分）各2分程度

→梅澤さん（SDGsの視点で）

→平田さん（地域づくり、コミュニティづくりの視点で）

→SSF小淵（多様性、共生社会の視点で）

→SSF澁谷（全体的な視点で）

## ●総括（第3者的視点で全体通して）（2分）各1分程度

→平田さん

→梅澤さん